

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎		◎
	2	○	◎	
	3	○	◎	
	4		◎	
	5	○		◎
	6			

経済学研究科博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	模範的	優秀	合格圏	学習過程
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	必要かつ十分な先行研究が評価された上で、学術的ならびに社会的意義のある研究課題であることが明確に説明されている。	必要な先行研究が評価されており、学術的あるいは社会的意義の研究課題であることが明確に説明されている。	必要な先行研究が評価されているが、学術的あるいは社会的意義に関する説明に若干のあいまいさが残る。	必要な先行研究の評価が不十分であり、研究課題の学術的ならびに社会的意義に対する説明も不明瞭である。
課題を追求する方法論の適切性	研究目的を達成するために最もふさわしく、かつ当該分野において高い水準の分析手法を正しく選択している。	研究目的を達成するためにふさわしく、かつ当該分野において一定水準の分析手法を選択している。	研究目的を達成するためにふさわしい分析手法を採用しているが、さらに改善の余地がある。	研究目的を達成するための手法が正しく選択されているとは必ずしも言えず、当該分野における一定水準に達しているとは言えない。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究目的の達成に必要なかつ十分なデータや資料を収集しており、それらを研究目的に沿って正しく活用し、的確に提示している。	研究目的の達成に必要なデータや資料を収集しており、それらを研究目的に沿ってほぼ十分に活用し、提示している。	研究目的の達成に必要なデータや資料を収集しており、それらを研究目的に沿って活用しているが、さらに改善の余地がある。	研究目的の達成に必要なデータや資料を十分に収集しているとは言えない。
結論の妥当性	分析結果と結論との間に飛躍がなく、分析結果から明らかになった結果を整理し、経済学の専門知識に基づき結果を論理的に考察している。	分析結果と結論との間に飛躍がなく、分析結果から明らかになった結果を整理し、経済学の一定の知識に基づき結果を考察している。	分析結果と結論との間に飛躍はなく、分析結果から明らかになった結果を整理しているが、結果の解釈に関しては経済学に基づいて改善する余地がある。	分析結果と結論との間に飛躍はあり、また、経済学に基づく結果の解釈が不十分である。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究課題、分析手法、および分析対象には先行研究には見られない独自性があり、当該研究分野への多大な貢献が認められる。	研究課題、分析手法、あるいは分析対象のいずれかに先行研究には見られない独自性があり、当該研究分野への一定の貢献が認められる。	研究課題、分析手法、あるいは分析対象のいずれかに先行研究と比較して一定の独自性があり、当該研究分野への一定の貢献が認められる。	研究課題、分析手法、および分析対象には先行研究と比較して独自性がなく、当該研究分野への貢献が認められない。
その他				